

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成21年12月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503627		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム コケモノの家		
所在地	〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号 (電話) 011-851-5900		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年11月20日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】 (21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 11 月 18 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算16.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円		
その他の経費(月額)	水光熱費 22,000円 暖房費(11～3月) 14,000円		
敷金	有 (37,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 無 ()	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (11月20日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	3名	要介護2	7名
要介護3	6名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 81歳	最低 63歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美園いとう内科 平川歯科医院 武田外科整形外科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当母体組織は、その人らしく自立した生活支援・家庭的雰囲気創造・豊かで暮らしやすい地域社会づくりを目指し、2箇所目の事業所としてと事業所を開設し4年目を迎えたところである。利用者は生き生きと元気に生活しており、職員は利用者主体の共に支え合う共同生活を支援している。詳細に作成されたケアプランにより職員の支援が統一され、利用者は安心して自分らしく、役割を持った張りのある生活が実現できている。入居者家族へはきめ細かい報告があり、家族からの信頼が厚い。地域との交流も深まってきており、今後は地域の基幹的存在として期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題とされた、<戸外に出た利用者への安全配慮>については、職員で話し合いを重ね、鍵をかけることへの弊害を避け、今まで通り利用者の出入りは自由にして、職員間での連携を密に利用者を見守る支援に取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員が自分の介護を振り返りながら各自が自己評価表を作成し、管理者がユニット毎に纏め上げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、全家族に案内を配り、事業所の行事などに合わせて、2ヶ月毎に定期開催をしている。事業所の状況や事故報告、市のゴミ減量リサイクル出前講座や認知症について等のテーマで意見交換をしている。最近では、構成メンバーが主に家族と職員に偏りつつある状況である。会議内容のテーマ毎に関係する地域の方にも案内を配り参加の呼びかけをして、地域の理解と支援につなげ地域交流を促進する働きかけを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や要望は、運営推進会議やケアプランの説明時、利用料金支払い時などの家族来訪時に、利用者の具体的場面の状況を話しながら意見や要望を伺い相談をしている。入居時に、苦情相談窓口の処理体制と手順の取り決めを説明し、重要事項説明書に明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、回覧板は利用者全員が目を通しサインをして会長宅に届けている。又、夏祭りや盆踊り等の町内会行事に利用者全員が参加をし、事業所行事にも地域の方を招待している。地域ボランティア(歌・カラオケ・手品・コミュニケーション)や小学校・中学校(職業体験)との交流も深まってきている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織共通の運営理念を基に、事業所開設時に全職員で、「地域の中でそれぞれの入居者が望む生活の実現」を目指した理念を、具体的な言葉でつくりあげ玄関に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の実現に向けて、個々の利用者が望む自立した生活を支える為の統一した支援内容について、カンファレンスやフローミーティングで話し合い実践を重ね評価をして、理念に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板は利用者全員が目を通しサインをして会長宅に届けている。又、夏祭りや盆踊りなどの町内会行事に利用者全員が参加をし、事業所行事にも地域の方を招待している。地域ボランティアや小学校、中学校との交流も深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自分の介護を振り返りながら各自自己評価表を作成し、管理者がユニット毎に纏め上げている。改善課題については、職員全体で方針を決定しその具体策を立て実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、全家族に案内を配り、事業所の行事などに合わせて、2ヶ月毎に定期開催をしている。事業所の状況や事故報告、市のゴミ減量リサイクル出前講座や認知症について等のテーマで意見交換をしている。	○	構成メンバーが、主に家族と職員に偏りつつある状況である。会議内容のテーマ毎に関係する地域の方にも案内を配り参加を呼びかけて、地域の理解と支援につなげ地域交流を促進する働きかけを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、豊平区連絡協議会や管理者会議などに参加をしている。市の担当者には、毎月、事業所の状況報告を行い、事故報告や申請書の提出の祭は、助言をもらう等の協働関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月、金銭管理帳と共に事業所便りや個別のお便りを送付して、運営に関するお知らせや利用者の暮らしぶりを写真やメッセージで伝えている。家族来訪時や体調変化時は電話で都度報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、運営推進会議やケアプラン説明、利用料金支払い等の来訪時に、利用者の具体的場面の状況を話しながら意見要望を伺い相談をしている。入居時に、苦情相談窓口の処理体制と手順の取り決めを説明し、重要事項説明書に明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、離職異動はほとんど無く、利用者との馴染みの関係が築かれている。新人職員には、新人研修で理念や入居者支援のあり方等を丁寧に指導し入居者とのコミュニケーションがスムーズに取れるよう配慮している。又、一人増員体制を試験中であり、勤務調整も柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月、フロアーミーティング後に開き、職員が興味ある事や必要としている事を各自で調べ発表をしている。外部研修では、実践者研修や救命救急講習、ターミナルケアやコミュニケーション等、職員各自の段階に応じた研修に参加をして、受講後はフロアーミーティングで報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、複数事業所連携のネットワークで職員研修の企画を担当している。又、施設ケアマネ研修の参加やグループホーム協議会主催の研修会開催の手伝いをして交流を重ねている。職員は、同法人の他事業所との合同研修や複数事業所連携ネットワークでの職員研修で職員同士の交流を重ねている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は、契約前に、本人や家族との面談を重ねて顔見知りの関係を築き、本人の馴染みの生活習慣や日課、本人や家族の意向を十分に伺い、入居後も生活のペースが混乱せず馴染めるよう配慮している。入居前には暫定プランが作成されており、職員が統一した支援が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の出来ること出来ないことへの見極めを慎重に行い、利用者主体の生活を支える支援に徹し、様々な生活場面で協力しあいながら共同生活を営んでいる。訪問時、入居者全員がそれぞれ役割を持って、生き生きと生活している様子が伺えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の視点に立ち、あらゆる生活場面で「どのような思い」で「どのように暮らしたい」のかを、利用者の話た言葉や表情を大切に丁寧な情報収集し、センター方式用紙に記載蓄積している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、利用者が望む事業所での生活の実現に向けて、センター方式情報から利用者視点での課題を抽出し、職員や家族、関係者と話し合い、詳細な具体策の介護計画を立案して、職員が統一した支援が出来るように取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	記録用紙は、利用者個々のケアプラン具体策に沿った内容が記載できるよう工夫され、それぞれの観察や実践項目を盛り込み、利用者毎に記録用紙を作成している。計画作成担当者は、毎月ケアプラン具体策に沿った関係項目のモニタリングを実施し、家族に報告をして意見要望を伺い、サービス担当者会議で評価見直し、次のケアプランに反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望により、デパートや大通などへの個別外出支援をしている。また、医療連携体制により、24時間対応の提携病院との連携体制整備や利用者の健康管理を強化し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者が協力病院の受診を希望しており、協力医療機関と連携して、毎月の訪問診療と事業所の看護師が利用者の健康管理を支援している。以前からのかかりつけ医や他科受診時、家族が同行できない場合は、柔軟に通院支援をして受診内容を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における事業所として可能な支援内容については、本人や家族の意向を最大限尊重し、グループホームとして出来ることを入居時に本人家族に説明をして、対応指針書に同意をいただいている。重度化した場合は、本人や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者を人生の先輩として接し、他利用者から誤解されないような言葉かけや誘導への配慮をして失礼のないよう心がけている。個人情報保護に関する取り扱いも定め実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全員が主体性を持った事業所での生活が営まれており、職員は利用者とのコミュニケーションを大切に共に行動し、全体の目配りにも配慮し、それぞれの利用者の「したいこと」を出来るだけ行えるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物での食材選び、献立の相談、野菜切り、下ごしらえ、味付け、盛り付け、食器準備、後片付けなど、利用者が主体となって職員が支援し、楽しみながら生き生きと食事作りが行われている様子が伺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、14時頃から18時頃までとなっているが、利用者の当日の生活リズムに合わせ、事前に利用者が入浴時間の相談をして入浴支援をしている。入浴を好まない利用者には、湯加減をみてもらう等の様々な場面設定をして誘導し、入浴支援に繋げている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、事業所生活の中で自分の役割をしっかりと認識し、生き生きと張りのある生活を送っている。チラシを見て食材選びや買出しに行ったり、自分の漬けた漬物を利用者自ら樽から取り出しご馳走してくれたり等、職員は、利用者の「したいこと」「出来ること」を介護計画に盛り込み統一した支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、畑や花壇の作業等は日常的に行っており、近所の方との交流の機会にもなっている。定山溪や果物狩り、バラ園、チョコレートファクトリー、初詣等、利用者の要望を聞き、遠出の外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、利用者が自由に出入り出来るように玄関を開錠して、利用者の外出を職員の連携で見守り支援をしている。夜間は防犯のため20時ごろから施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回、日中と夜間の火災想定で避難訓練を実施している。業者に依頼し、年2回の設備点検も実施している。近隣の方や地域住民との協力体制の整備が不十分である。	○	運営推進会議で、災害対策をテーマに地域の方に参加を呼びかけて、災害時における地域の協力を要請し、体制を整備してその協力体制の下、避難訓練することを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量を毎食ごとに把握し、一日の水分摂取量とともに記録用紙に記載している。献立内容は利用者職員が相談して作成しており、カロリーチェックは実施していない。	○	献立内容の栄養バランスチェックやカロリーチェックを実施する体制が不十分なので、1週間程度の食事内容を栄養の専門的観点からチェックしてもらい、それぞれの利用者に適切な栄養摂取量を提供できるよう取り組むことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は開放的で明るく、特に、台所は広くゆったりと設計され、アイランド式キッチンと作業しやすい広さのカウンターが設置され、動きやすい工夫がされている。台所用品の収納も利用者が使いやすいように工夫されている。又、事業所内の適度な温湿度の確保に配慮されており、利用者の集まる所には、加湿器が稼働され十分な湿度が保持されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、明るく、ゆったりとしていて、自分の時間を過ごせる空間になっている。利用者は、家族と相談しながら、自分の使い慣れた馴染みの家具や趣味の物、家族写真等を持ち込み、居心地よい居室となっている。		

※  は、重点項目。